



不動明王立像 (火焰なし、無彩色)

### 日々好日

六七二号

(令和七年二月発行)

寺の目睫にある工業団地の旭化成の社屋が解体され海がよく見えるようになりました。

正月の新聞によればその跡地にマツダの電気自動車の電池を造る会社が進出するという。時代に即応した企業の創業は大歓迎である。それによって海が見えなくなっても忍受できる。

この正月、岩国の白蛇神社は遠近の参詣者で混雑したという。干支にちなんでの参詣である。

經典には「煩惱の毒蛇睡って汝が心であり。毒蛇は悪獣・怨賊よりも甚だし、こころを縦にすれば人の善事を喪う」と、あります。(佛垂般涅槃略説教誡経)

心の中の毒蛇の存在を意識しないで金銭などの欲望の充足を祈ることに終始すれば怨賊よりも怖い毒蛇に害されることにもなります。

脱皮する蛇のように、人は神佛の前では心を一新する心構えで祈りを捧げなければ人を不孝にしかねません。毒蛇をかかえたままでは…。

私も海の見える間、昇る朝日を拝みながら、己が心を調べて本尊に祈りを捧げたい。

心を調べれば神仏は間近に拝される。その時、心の中の毒蛇も姿を消すであろうことを確信する。

### 弘法大師のお言葉

「朝夕の食を営み、夏冬の夜に勞す。浮雲の富を願って如泡の財聚め、不文の福をもとめて若電の身を養う」

(三教指帰卷中)



好日

とてふ







## 過ぎし師走の日々

一年の最後の月師走は一年の総仕上げの意味で何かと忙しい。歳末には大掃除をして歳徳神をお迎えする準備もあります。

思いもしなかった入院も経験し退院は師走の三日。しばらくは安静にと廻りも気遣ってはくれるものの安閑の日々とはまいりません。師走ならではの来客や参詣者もあり、法事も終観音の護摩供もありました。案じたほどのこともなく平常通りの対応ができたことで自信も戻りました。

時間を持て余した入院中に思いついたことの一つに、当山には壇上の金箔の多宝塔の他に今一つ、錦帯橋の架け替えに携わった長谷川十右衛門の作と伝承される江戸時代の多宝塔があります。

その塔は弥勒菩薩の斜め前に安置していましたが、塔としての存在感が感じられないのです。そこで思いついたのが、昭和五十八年十月に大師信仰をより活性化させる意で、奥之院の消えざる三燈の分燈を希望する寺院に護持せしめたのです。

その燈明を思案の結果、納骨堂の彌勒菩薩の前に移し、その位置に塔を移すことでした。それは弘法大師像の後ろ一段高い所に塔、その背後の壁には奥之院大師御廟の額を配し、塔も存在感を示しています。



大掃除とはまいりませんが、歳末の掃除の際にそれを為して新年を迎えられたことを喜んでいきます。

平素、老齢にことよせて自らも恥じる為体で礼を失うこと多きにもかかわらず、歳末には幾多の方々より様々なお心遣いを頂戴し心より御礼申し上げます。

それらを一々あげることが出来ませんが、当山歳末の慣わしに菅原道真公（天神様）の軸を掲げてお祀りすることが江戸期から行われていますが、大宰府天満宮所縁の、管公の酒を今年も篠栗霊場の龍泉堂主、木山亮昭師より御供いただきました。



また大晦日には高野山三寶院飛鷹全隆前官より、京都東寺の長者を退任された記念品を頂戴いたしました。その中の腕輪念珠は、インドを始め南方の諸国で産する菩提樹と称する二十一種もの珍珠で調製されたもので、形状も色も材質も不揃いで、八十路の僧の長い人生の様々な出来事を象徴し、その結実を目にするかに感じられたことでした。

早速、左腕に掛けて除夜の鐘を撞き、新春の参詣者をお迎えさせていたのだいたことでした。

これからの人生、いかなる形、色、材質の出来事が起こりその結実はど



のようなものになるのか楽しみたい。

また、南岩国町の山本フミ様にはシユクラメンの鉢、二鉢を頂戴しました。真紅とピンクの花は目を楽しませるだけでなく身体まで元気にさせてくれます。

更に忘れてならないのは、広島在住の西岡明美様は盆と暮れに、境内の地藏尊の涎掛けを大小幾枚も手作りされて奉納されます。裁縫が特異とかではなく何よりも信仰心がなくては出来るものではありません。



中でも一番大きな水子地藏尊には六躰の嬰兒が抱かれ、また蓮台にあしらわれています。延命地藏・ぼけ封じ地藏のほか石造の小さな地藏は幾躰もあります。是等の地藏尊も喜ばれているに違いありません。

以前は鏡餅をお供えされる方もありましたが、現在はそれはありません。蜜柑やお酒もこの時期ならではのお供えでしょう。こうして信仰心に支えられてお正月を迎えられてみ仏もお慶びのことでありましょう。

そして、お寺とは何のかかわりもありませんが、小三までしか就学しなかった灘小の同窓会というかクラス会なのか定かではありませんが、五月に開催される連絡をいただき、出席する返答をしました。

私のことを覚えていて下さる方があり、遇いたいということでした。関東や九州など遠方の方も出席とのことで、七十余年振りの再会を楽しむというより、ともかくも健康で出席できるのであることを喜びたい。

五月には本尊遷移十年の記念の法要を営みますが、同窓会はその翌週の日曜であったことも好運でした。

退院後の師走の日々は充実した日々でした。

除夜の鐘を撞きながら煩惱の幾つかを滅して巳年を迎えさせて頂いたことでした。



### 御歳暮・御年賀等浄財拝受者芳名

葛谷文字殿・河中京子殿・吉岡琴路殿・渡部富士惠殿  
石井靖夫殿・福島和美殿・二代博幸殿・久保田惠美子殿  
村本博人殿・中原六男殿・石井 誠殿・末本ひろ子殿  
中岡大輔殿・和八孝男殿・堀内春男殿・竹原シゲ子殿  
若林 望殿・植月 守殿・竹本幸生殿・土井ゆみ子殿  
吉岡 茂殿・太田信幸殿・高石正喜殿・松重小智子殿  
弘津善通殿・中川賢次殿・重岡一雄殿・江野尻祥子殿  
大西仁子殿・富岡和子殿・西岡良惠殿・坂本 美重殿  
矢野峰子殿・木邊聖子殿・藤重和子殿・末岡 政子殿  
河村浩志殿・阿部喜一殿・杉本俊美殿・深川 秀雄殿  
岡本啓志殿 (順不同)

寺移転・本堂新築十年の記念法要を五月十八日に営む予定です。この法要のためにこの浄財を使わせて頂きたいと考えています。

### 高野山奥之院弘法大師御廟前奉納御写経 六五〇

二巻奉納 岩国市装束町四丁目 福島 松代殿  
二巻奉納 岩国市南岩国町二丁目 沖本あつ子殿  
一卷奉納 岩国市通津 吉岡 律子殿  
(十二月十一日〜一月十日奉納分)

凶仏に衲衣を施して受けたもの

仏は舎衛国の祇園精舎に在しました。仏は阿難を伴い城に入り乞食を始められました。

その時、仏世尊の身に着けられていた法衣は少しばかり破れていました。一人のバラモンがそれに気附いて、仏に布を惠施して破れを直して差し上げたいと思いい家に帰り布を得て持ち来たりて、仏の前にそれを差し出して言いました。

「世尊、この布をもつて法衣の破れを補修して下さい」と。

仏はその布を受け給いました。バラモンは歡喜勇躍するのでした。仏はバラモンの心情を察し、将来仏となるよう授記（予言）をされたのです。

それを知つて国中の豪賢の長者や居士らは思うのでした。「世尊はどうしてあのような少しばかりの布切れを布施されただけで将来の仏たるべき授記を授けられてのであろうか。不思議のことであり、理解できないことである」と。

そのように思いつつも彼らは各々如来の為に、好もしき布を調べて仏に奉るのでした。

それを知つて阿難は仏に尋ねました。

「世尊はその昔、どのような善行を為して今世に法衣を奉施されるようになったのですか、教えて下さい」と。

仏は阿難に答えられました。

「良く聴くがよい、汝の為に過去の因縁を説こう。

その昔、毘婆尸仏の世に、槃頭という王がありました。

その王のもとに一の大臣がありました。大臣は仏とその弟子らを招請して三月の間供養を為したいと思つていました。

仏は大臣の招きを受け給いました。

大臣は喜んでその準備をはじめました。それを知つて槃頭王は自分もまた仏と弟子らを招請して三月の間供養をしたいと思つたのでした。

王はそのことを毘婆尸仏に告げたのでした。

仏は王に告げ給いました。

「王よ、吾、先きに彼の大臣の請を受く。これを蔑ろにすることはできない」と。

王は王宮に帰り大臣を呼んで言いました。

「仏、今わが国に來処し給えり。王として一番最初に仏と弟子らを招請して供養をしたいと思う。汝、吾より先きにそれを為すこと莫れ。汝のそれは我が供養の後に為せ」と。それを聞いて大臣は言いました。

「大王よ、私の命を保証し、また、如来をして常にこの土にあらしめ、国土に災無からしめることを確約して下さいますならば、王の欲するままに私より先に供養を為されることに異存はありません」と。

王は答えました。

「そのようなこと、王でもそのようなことは出来ないことを告げたのでした。

大臣はそれを了とし、供養を為し終え、その後王もまた供養をなし、共に所願を満たしたのでした。

その時、大臣は如来の為に衲衣など三衣を誂え、諸弟子らにも七条衣を調べそれぞれに一領を与えたのでした。

仏は告げられました。

「阿難よ、まさに知るべし。その時の大臣とは我が身。これなり。吾世々にこのような福を厭うことなし。今その報いを受ける也。布施空しからず」と。

阿難ら仏の説き給うを聞いて歡喜し、各々諸々の福樂を営み心踊躍し頂戴奉行したりき。

# あとがき

穏やかな元旦お正月であった。昨年のような地震も大きな事故もなく日が過ぎてゆくことは喜ばしいことで、それが何時までも長く続く年であってほしい。

それでも火災だけは毎日のように報じられています。暖房器具の取り扱いには誰もが注意深くしているのですが、それでも火災が発生しています。注意の上にも注意確認が必要だということです。高齢者は特にそれを為して災難を免れてほしいことです。

十年余り使用していた印刷機が部品の供給ができず手放すことになり、この寺報も今迄とは違うものとなりましたが、これからもプリンターで発行を続けることができそうなので一先ず安心しています。

お正月の行事も例年通りつとめることができましたが、これも健康であつてのことです。檀信徒の方々にもご心配をおかけしたことでしたが、よくよく伺えば多くの方々、闘病の日々をおくられていたり、病を克服されるも家族に支えられながらの生活であることを改めて知ったことでした。

寒い日が続いていますが、雪国の方々のことを思えば極楽です。雪かきなど高齢者には負担が大きく出来ることではないのですから…。

発行者

高野山真言宗

寶池山 龍

門 寺

吉岡 光昭



優しさを

心に秘めし

不動尊

慈悲極まれし

忿怒の形相



顯宗手  
(ケンゲツシュ)

岩国市通津 3634 番地 3 番地

☎740-0044

高野山真言宗

寶池山 龍 門 寺 発行

岩国 (0827) 38-4611 番